

005 健康経営 取り組み事例

企業
プロフィール

あなたの未来を強くする



住友生命保険相互会社

業種 30 保険業

従業員数 42,511名(2023年度末)

01 目的

住友生命グループは「ウェルビーイングに貢献する『なくてはならない保険会社グループ』」の実現を目指している。そのためには、一人ひとりの職員が個々の能力をいきいきと最大限に発揮し、職員やその家族が心と体の健康を大切に「ウェルビーイング」であることが重要であり、健康保険組合と協力し取り組みを推進している。

02 課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題

	課題 ① 組織のパフォーマンス向上
健康経営で解決したい経営上の課題	職員が個々の能力をいきいきと最大限に発揮し「ウェルビーイング」であるために、特にフィジカル面を起因としたアブセンティーズムやプレゼンティーズムの改善が課題。
健康経営の実施により期待する効果	職員が健康に対し「意識」「行動」し、健康維持・増進活動に積極的に取り組み、2次健診対象者占率30%未満(KPI)等を達成することにより、業務パフォーマンスの改善および職員ウェルビーイングの実現を期待。

自社従業員(組織)の課題と目標

重点課題1 ⑨ 生活習慣改善(運動・睡眠・食生活等)に関する従業員の課題

課題内容	健康増進型保険「住友生命「Vitality」」発売(2018年)以降は「運動不足」に関する状況は年々改善するも、その後コロナ禍の行動制限の影響等による悪化傾向もみられ、まだ十分な水準とはいえ、運動習慣改善へ向けた取り組みを更に推進していく必要がある。		
目標	運動習慣の改善(運動不足者率の低下)		
	数値	単位	年度
取組前実績値	61.6	%	2018年度
現在の実績値	47.4	%	2023年度
目標値	前年比改善		

重点課題2 ⑩ 従業員の喫煙率低下

課題内容	当社の「喫煙率」の状況は、全国平均(16.7%)と比較して非常に高水準となっており、取り組み以降年々改善傾向がみられるものの、職員自身やすべてのステークホルダーの更なるウェルビーイング実現のため、喫煙率低下に向けた取り組みを更に推進していく必要がある。		
目標	喫煙率の低下		
	数値	単位	年度
取組前実績値	25.9	%	2018年度
現在の実績値	23.5	%	2023年度
目標値	前年比改善		

04 健康経営の成果

経営上の課題に対する健康経営の成果

各種生活習慣の改善傾向とともに、KPIである2次健診対象者占率も29.5%(2018年度)から27.1%(2023年度)と着実に改善している。これらの取り組みが、業務パフォーマンスの改善や職員ウェルビーイングの実現へつながら、「ウェルビーイングに貢献する『なくてはならない保険会社グループ』」の実現に向けて前進している。

03 施策・実績

健康経営の取り組み

施策内容(重点課題1)

「Vitality健康プログラム」活用による健康維持・増進活動を推進するとともに、年2回(春・秋)の社内ウォーキングイベントを開催している。

具体的な実践内容1

分類	自社サービス
名称	Vitality健康プログラム
内容	健康増進への取り組みをポイント化し、獲得した累計ポイントで判定したステータスに応じて、保険料が変動し各種特典(リワード)も利用可能。
導入時期	2018年7月
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の本サービス利用者増加に伴い、「運動不足者率」の状況は導入前の61.6%から直近47.4%(2023年度)と△14.2pt改善している。 ●2023年4月に保険契約と切り離し、プログラムの一部を利用できる「Vitalityスマート」を発売し、利用者の更なる増加につながっている。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	健康管理アプリkencom
提供元社名	DeSCヘルスケア株式会社
内容	健康データや歩数・体重等の管理、参加型の健康増進イベントの展開等を提供するアプリ。
導入時期	2017年7月
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●使いやすさ ●実績
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●アプリを活用した社内ウォーキングイベント「みんなで歩活」を毎年2回(春・秋)実施。2024年度は延べ18,905名(春9,529名・秋9,376名)が参加。 ●個人戦だけでなくチーム対抗戦(延べ参加チーム数2,941組)も実施し、健康増進活動を通じたコミュニケーション活性化も図れている。

データ活用事例

事例名	糖尿病重症化予防事業への活用
内容	健康保険組合とのコラボヘルスの取り組みのひとつとして、糖尿病の重症化予防のために健康保険組合が主体となり、各種データ等を活用し一定基準を超えた対象者を選定し、産業医(本社診療所長)の協力のもと面談指導を実施している。
利用データ	健康保険組合の保有する健診データ、レセプトデータ
利用者(ユースケース類型)	産業保健スタッフ(ユースケース1)

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	生活習慣の課題については、職種や地域、世代、ヘルスリテラシー等による格差が大きく、それぞれに対する効果的な施策の手が打ちにくい。また投資に対する効果測定が難しい面も課題である。
今後取り組みたい施策の課題	業務パフォーマンス改善へ向けて、メンタルヘルスへの影響が大きい睡眠の質向上に向けた取り組みや、女性の健康課題へ向けた取り組み、職員のヘルスリテラシー向上へ向けた取り組みを推進していきたい。

施策内容(重点課題2)

全社で「卒煙サポート運営」を展開し、卒煙チャレンジ応援プログラムの実施や本社所属における就業時間中禁煙および喫煙スペース利用自粛運営を実施。

具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	みんなチャレ禁煙プログラム(卒煙チャレンジ応援プログラム)
提供元社名	エーテンラボ株式会社
内容	習慣化アプリ「みんなチャレアプリ」や禁煙補助薬等を活用して禁煙をサポートするプログラム。
導入時期	2024年8月
選択理由	●効果 ●機能・性能 ●使いやすさ ●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●管理職等を中心として本プログラムに取組み、禁煙成功者(4週間以上禁煙)が59.7%の結果となった。(参加者約120名中) ●禁煙仲間と励まし合う「みんなチャレアプリ」の活用や、身近な方へ応援いただく「禁煙サポーター制度」の活用等により、より高い成功率になったと思われる。今後も対象者を拡大して取り組んでいく。

具体的な実践内容2

分類	自社組織
名称	本社所属における就業時間中禁煙および喫煙スペース利用自粛運営
内容	本社所属の職員に対し、就業時間中における禁煙運営および入居ビル設置の喫煙スペースの利用自粛運営を実施
導入時期	2024年10月
評価(定量・定性)	●運営に前向きに取り組んでいただいている職員の声も聞かれ、禁煙に対する意識醸成が図れている。今後、段階的な全社展開へ向けて検討しており、さらなる喫煙率の低下へ向けて取り組んでいく。